

文化

ニュースを問う

フェロシルト問題

愛知県瀬戸市と長久手町を訪れた。万博会場跡地ではない。二〇〇四年十一月、土壌埋め戻し材「フェロシルト」から「赤い水」が流出し、問題追及の口火となった場所だ。とりわけ長久手町の埋設地は会場跡地からほんの数百メートルの近さにあった。

「市民の力ですごくいいですね。撤去作業が行われる現場で、住民団体「瀬戸市にこれ以上産廃はいらない会」の川村正子さん(会)と森本真樹さん(会)は人ごこのように言った。

公害防止に行政や企業に対する市民の監視は欠かせない。フェロシルトが撤去にまでたどりついたのは愛知や岐阜の市民の力が大きかった。対照的に三重県内の住民の動きはなぜか低調だった。四日市公害の経験が生かされなかったのは残念だ。

フェロシルトは、大阪市の化学メーカー・石原産業が、酸化チタンの製造で出る硫酸廃液を「リサイクル」して製造した。〇一年から販売され、愛知、岐阜、三重、京都の四府県に七十万ト以上が埋められた。酸化鉄を含むため赤く、「赤い土」と呼ばれた。昨年十月には別の廃液の不正混入の事実が岐阜県の調査で判明。不正の舞台となった工場は三重県四日市市にあり、私はこの時から取材にかかわるようになった。



中沢 穰
(四日市支局)

四日市公害の経験生きず

東海3県のフェロシルト撤去状況

愛知県	埋設地	当初の推定埋設量(トン)	作業
名古屋	名古屋市名東区猪高町	60	完了
豊田	豊田市深見町岩花①	5200	完了
豊田	豊田市西中山町	800-1000	完了
豊田	豊田市深見町下田	20000	完了
豊田	豊田市深見町岩花②	300	撤去中
小牧	小牧市大草	400	撤去中
瀬戸	瀬戸市北丘町	82000	撤去中
瀬戸	瀬戸市幡中町	137000	撤去中
瀬戸	瀬戸市広之田町	2200	完了
瀬戸	瀬戸市南ヶ丘町	1500	完了
常滑	常滑市金山	30	完了
尾張旭	尾張旭市城山町	100	完了
日進	日進市折戸町	3000	完了
長久手	長久手町前熊	13000	撤去中
瑞浪	瑞浪市稲津町	10000	未着手
瑞浪	瑞浪市陶町	420	完了
土岐	土岐市泉町	32700	撤去中
土岐	土岐市鶴里町	3960	完了
土岐	土岐市土岐津町	150	完了
可見	可見市大森A	4285	完了
可見	可見市大森B	5315	完了
可見	可見市久々利	6800	完了
本巣	本巣市早野	3100	撤去中
恵那	恵那市三郷町	925	完了
美濃	美濃加茂市加茂野町	58	完了
美濃	美濃加茂市牧野	370	未着手
美濃	美濃加茂市蜂屋町	180	未着手
岐阜	岐阜市上西郷	18000	撤去中
四日市	四日市市垂坂町	75200	撤去中
四日市	四日市市山田町	21500	完了
桑名	桑名市長島町	6300	完了
いなべ	いなべ市藤原町	106000	未着手
いなべ	いなべ市大安町	6880	撤去中
亀山	亀山市辺法寺	131400	未着手
津	津市柳原①+②	11400	撤去中

その不正混入発覚から四日後、各市民団体と三重県、同社の担当者と同県桑名市に集まり、懇談会が開かれた。「明日にでも撤去してほしい」「産廃と認めるべきだ」。公民館の和室で市民らは担当者らと向き合い、厳しい言葉をぶつけた。同社役員が「フェロシルトはよい商品だった」と発言すると、矢継ぎ早に質問が浴びせられ、不正混入がなくてもフェロシルト自体に有害な六価クロムが含まれていることをその場で初めて認めさせた。

住民の監視が不可欠

愛知県や岐阜県の市民は当初から互いに連携し、水質の調査などを重ねて独自に情報を収集した。公開質問状や懇談会などで追及を続け、同社と三重県が示したフェロシルトの「安全性」を覆した。冒頭の森本さんと川村さんは「近所に危険なものがあれば誰でも不安になるでしょ。身近な危機感が大きな問題の追及につながった」と振り返る。

一方で、三重県内では埋設地の地元で撤去を求める住民運動も、広域的に問題を提起する市民運動

〇三年、フェロシルトをリサイクル製品として認定していたからだ。男性は「県のお墨付きがあった、誰も悪いもんとは疑わなかった」と悔しがる。

追及の先頭に立ってきたタイオキシンの処分場問題愛知ネットワークの吉川三津子代表は厳しく言い放つ。「行政を信用していたら、フェロシルトは今も放置されていた」。放射能のごみはいらない！市民ネット・岐阜の兼松秀代表も「市民が学び、声を上げることが不正を許さない力になる」



各地から撤去されたフェロシルトが運び込まれる石原産業四日市工場の仮置き場—三重県四日市市石原町で

も、目立った動きはなかった。私自身も反省を込めて言えば、桑名の懇談会で愛知や岐阜の市民らの迫力に驚き、問題の深さに初めて気付かされた。

三重県内のある埋設地では瀬戸市と同じように赤い水が流れた。た。「硫酸廃液を中和処理した産廃の」アイアンクレーと同じではないか。近くに住む男性は直感した。それでも疑問の声は広がらなかった。三重県は

と話しだ。しかし同時に二人は「行政を疑うのは大変なこと。一般の市民と行政とでは情報量の差は大きく、時間も労力も並大抵ではない」と口をそろえた。その通りだと思ふ。しかし四日市はかつて公害で苦しんだ地だ。

ともあれ、フェロシルトは三重県にとって新しい問題でない。石原産業は一九六〇年代に同じ酸化チタン製造過程で出る硫酸廃液を海に垂れ流し、四日市海上保安部に摘発されている。その後、硫酸廃液は中和処理して泥状の産廃・アイアンクレーとして廃棄物処理していたが処理費が大きな負担とな

なり、「無害化」して販売したのがフェロシルトだった。

「身近な環境を自分たちで守るといった意識がいつの間にか薄れてしまった」。四日市公害を記録し続ける四日市再生公害市民塾の沢井余志郎さんは言う。「四日市は工場あつてのまち。だからこそ私たちが市民は工場の監視を怠ってはならない」

住民の環境への無関心が不正を増殖させる。それは私の反省でもある。

意見は〒460851
1 中日新聞編集局「ニュースを問う」係へ。電子メールは genron@chunichi.co.jp